

2023年7月28日(金)

(P2307-A)

8月4日は「栄養の日」、ニュートリーが「栄養介入の実態調査」を実施 訪問看護で栄養評価を行った75歳以上の6割が“痩せ” 食べられていても“体重減少” 製品利用により体重維持・増加、また活気・活動量増加

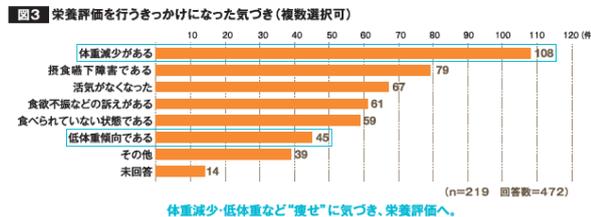
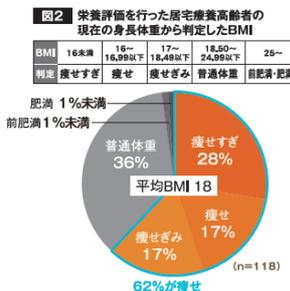
栄養療法食品を開発・製造・販売するニュートリー株式会社(本社:三重県四日市市、代表取締役社長 武政栄治、以下、ニュートリー)は、2022年8月25日~10月28日、全国の訪問看護ステーションの訪問看護師を通じ、訪問看護を受けている経口摂取可能な75歳以上の後期高齢患者(以下、居宅療養高齢者)378人を対象に「栄養介入の実態調査」を実施しました。

調査結果を元に、居宅療養高齢者の低栄養や虚弱のリスクに詳しい医療法人社団 悠翔会 佐々木淳先生の協力を得て、医療者および一般の方々にわかりやすい対策方法をまとめ、WEBセミナー、栄養指導冊子、アニメーション動画を用意し、8月4日(金)の栄養の日に併せ、調査結果を発表するに至りました。

【栄養評価に関する調査トピックス】

本調査から、食事や栄養に問題があるが「食べられている」と回答した方に当てはまる問題点として、「痩せてきている」、「るい瘦がある(著しく痩せている状態)」があげられました(図1)。この背景には、「(必要量よりも)食事の提供量が少ない」「食事の準備ができない」などの食事環境が原因でエネルギー摂取が不足している状況と、「息切れしやすい」「だるさがある」「体調不良を感じる」「熱や強い痛み、外傷などがある」などの病気による炎症反応でエネルギー消費量が増加している状況が考えられます。また「食べられていない」と回答した方は、食べられていると回答した方と異なる点として、「認知機能に問題がある」「飲み込みにくい」「噛みにくい」「口腔環境が悪い(義歯の不具合・乾燥・不衛生)」などの問題を抱えていることがわかりました。

栄養評価(栄養過不足の評価)の担い手は看護師が中心で、栄養評価を行った居宅療養高齢者のうち62%が痩せ(痩せすぎ、痩せ、痩せぎみ)でした(図2)。栄養評価を行うきっかけを聞いたところ、「体重減少がある」「低体重傾向である」など“痩せ”に気づき、栄養介入を開始していました(図3)。



【栄養計算に関する調査トピックス】

栄養計算(目標体重に対する必要栄養量の算出)を行った居宅療養高齢者は全体の13%と非常に少数で、その担い手も看護師が多い結果となりました。栄養計算を行う上で考慮している項目は、基礎代謝が最も多く、次いで運動代謝、障害係数と続きましたが、これらの結果から病気による炎症反応で

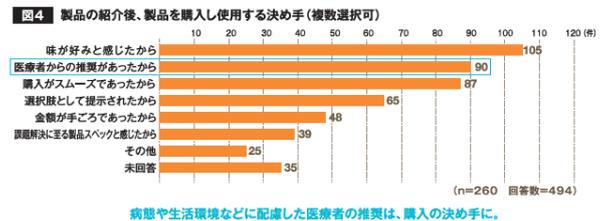
NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

エネルギー消費量の増加が考えられる居宅療養高齢者に対して、必要栄養量の算出が十分でないことが推察され、体重減少やい瘦などに繋がっていることがうかがえました。

【製品紹介に関する調査トピックス】

栄養評価、栄養計算、製品紹介のうち、看護師が実施しやすいことは「(食の課題を有する患者に適した)製品紹介」でした。一方で、実施しにくいことは「栄養計算」でした。製品紹介を受けた利用者は全体の69%(260人)で、その担い手は看護師が中心でした。製品紹介の際に選択肢として提示したものは、「濃厚流動食」や「カップゼリー」など主に病院・介護施設で利用される「処方できない、栄養補給を目的とした製品」、経腸栄養材など医療費がかかる「処方できる、栄養補給を目的とした製品」、アイス・ヨーグルト・プリンなどの「一般食品」で、ほぼ同率の結果となりました。

それらの製品紹介を受けた260人のうち、選択肢の提示後、利用者の82%が「製品を購入し使用」していました。紹介製品の利用開始時期は「栄養介入6ヵ月以内」が56%で「栄養介入当初」の回答が28%でした。製品を購入し、使用する決め手は「味が好みであった」に次いで、「医療者の推奨があったから」があげられ(図4)、患者の病態および生活環境などの状況に配慮した製品提案は受け入れやすいことが推察されます。



製品紹介を受け、製品を購入、使用した212人のうち、「2度以上の継続購入があり使用中」である利用者は73%でした。製品紹介を受けた260人では、「3ヵ月以上継続して使用」した利用者が59%で、その154人に継続期間を尋ねたところ、「1年以上」が44%、飲用頻度は「毎日」が65%でした。継続理由は「手軽にバランスの良い栄養が摂れるから」「不足しがちな栄養素が摂れるから」「味にバリエーションがあり継続摂取できたから」「体重の変化を感じた」と続きました。

製品紹介を受けた260人のうち、製品利用により、患者の栄養状態が改善したと回答した方は45%でした。患者の栄養状態以外に生活の改善がみられたと回答した方は43%で、活力向上(「活気が出てきた」「活動量が増えた」)や食事への意欲向上(「食事を安定して摂取できるようになった」「食欲が出てきた」)、体重の維持・増加(「体重が維持できた」「体重が増えた」)などの成果を得ていました。

【考察】

病院の食事は食事療養費でまかなわれているため、機能性や味のバリエーションに富んだ製品が広く活用されていますが、居宅療養高齢者に対して栄養療法の実践を推進するためには、さまざまな製品を知っておく必要があります。本調査での栄養介入の実態から、訪問看護師らが「一度に食べられる量が少ない」「老々介護で食事の準備が負担である」などの事情を把握した上で、購入しやすい製品を提案していることがうかがえます。

在宅では経済的な事情を含め、経腸栄養材など医療費がかかる「処方できる、栄養補給を目的とした製品」が選択されるケースが多いといわれていますが、本調査では、処方栄養剤と同様に病院・介護施設で利用される「処方できない、栄養補給を目的とした製品」も選択肢として提案されていました。これは回答者が栄養に関心が高い層であるためと推察されますが、患者に合った栄養療法を提案・実施するためには、医薬品として処方できる経腸栄養剤だけでなく、味のバリエーションが多岐に渡る濃厚流動食、エビデンスが確立し国が許可する特別用途食品、少量で高栄養のゼリーなど選択肢を広げた提案が、患者の栄養面と医療費の適正化という面で有効であると考えられます。

調査結果を踏まえ、居宅療養高齢者の低栄養や虚弱のリスクに詳しい、医療法人社団 悠翔会 佐々木淳先生に「居宅療養高齢者は、まずは入院しないよう、また入院しても退院して元気に過ごせるよう、日ごろから体重と筋肉を守ろう」とコメントをいただきました。

NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

今後もニュートリーは情報発信と、商品開発を通じて、一人でも多くの方の QOL 向上に貢献するとともに、多様化する医療ニーズに応え、医療・介護に携わる人々を支援してまいります。

飽食の時代に、居宅療養高齢者は“飢餓”か。体重と筋肉を守ろう。

居宅療養高齢者に多い「痩せ」は、「低栄養」の危険サインであり、早期発見が重要です。食事を食べられない方への意識は向きやすいですが、「食事を食べている」ということだけで安心していると、**①必要な栄養量を充足できていない②たんぱく質の摂取量が足りないということを見落としがちです。**必要な栄養量は、個々の体格や活動量、抱えている疾患などによって異なります。**特に体を動かしたり(負荷のかかるリハビリなど)、炎症性疾患を抱えていたりする場合は、通常の必要量より多くの栄養が消費されます。**また、たんぱく質は体を動かしている筋肉を作っていますが、**身体活動に必要なエネルギー源が枯渇すると、分解され栄養源となります。そのため筋肉量が減り筋力も低下し、転倒やそれに伴う骨折リスクの上昇、栄養不足による免疫力の低下、褥瘡の発生などを引き起こします。**

「痩せ(体重減少)」は栄養状態を見直す重要なサインです。**以前に比べて体重が減って活気がないことに気づいたら、それ以上痩せないこと、体重を増やすことを目指しましょう。**体重が減り栄養量の追加が必要な方ほど、摂食量が必要な量に足りていなかったり、嚥下機能の低下により食べられないなどの問題を抱えていたりします。そんな時、ご本人が無理なく確実に栄養摂取できる製品の情報を知っておくことは大切です。最近では、**飲み込みが困難な方のためや、QOL 低下の要因ともなる褥瘡の悪化を防ぎ治療するための特別用途食品も登場しています。****新たな視点として関心を持っていただきたいと思います。**

医療法人社団 悠翔会 理事長・診療部長 佐々木淳先生
日本内科学会認定医 2021 年内閣府規制改革推進会議専門委員
著書『在宅医療のエキスパートが教える 年をとったら食べなさい』



ニュートリー株式会社について <https://www.nutri.co.jp>

ニュートリーは、医療・介護現場をはじめ、一般の方々に向けて、栄養補助食品、嚥下補助食品、流動食を開発・製造・販売するヘルスケア企業です。1963 年に設立し、2014 年より DM 三井製糖グループに入り、2022 年に DM 三井製糖の 100% 子会社となりました。

栄養補助食品の領域において、「ブイ・クレス CP10(シーピーテン)ミックスフルーツ」は「褥瘡を有する方の食事療法として使用できる食品」として特別用途食品「個別評価型病者用食品」の表示許可を受けており、栄養療法食品の認知度をけん引しています。嚥下補助食品の領域においては、ニュートリーは自社工場、飲み込みが難しい方のために使用されるところみ材・ゼリー化材を製造しており、特別用途食品「えん下困難者用食品」の最多取得企業です。流動食領域においては、経口・経管のいずれからも栄養補給が可能な、日本初の“デュアルユースの紙製容器”を開発するなど経管栄養管理におけるさまざまな課題解決に向けた製品を開発しています。さらに、2022 年 12 月、テルモ株式会社より栄養食品事業を譲受し、製品ラインナップを拡充しています。

栄養療法の新たな可能性の追求をミッションに、医療機関・介護福祉施設との連携を通して日本の栄養療法を支えるとともに、商品開発を通じて一人でも多くの方の QOL 向上に貢献、医療ニーズに応え、医療・介護に携わる人々を支援することを目指しています。

本件に関するお問い合わせ先
ニュートリー株式会社 広報:横山・藤本
電話:03-3206-0107 メール:press@nutri.co.jp
東京支店:〒105-6923 東京都港区虎ノ門 4-1-1 神谷町トラストタワー23F

NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

栄養介入の実態調査 詳細 (※小数点以下は四捨五入)

【調査概要】

- 調査主体 : ニュートリー株式会社
- 調査協力 : 株式会社メディバックス
- 調査対象 : 全国の訪問看護ステーションに勤務する訪問看護師で、利用者の栄養介入状況などを把握している方。または、看護師で以下の対象条件を全て満たす利用者の担当者。
〈1〉経口摂取可能〈2〉半年以内の介入〈3〉75歳以上〈4〉本調査許諾者
- 回収方法 : FAXで提出
- 回収期間 : 2022年8月25日～10月28日
- 回収総数 : ①事業所 281件 ②居宅療養高齢者 378名

【属性に関して】

〈設問 01〉ご利用者の介護度 (n=378)

- ▶介護保険申請無(4%)、要支援 1(1%)、要支援 2(2%)、要介護 1(10%)、要介護 2(10%)、要介護 3(10%)、要介護 4(16%)、要介護 5(42%)、未回答(5%)

〈設問 02〉ご利用者の日常生活自立度/寝たきり度 (n=378)

- ▶ランク J(7%)、ランク A(18%)、ランク B(25%)、ランク C(41%)、未回答(9%)

〈設問 03〉ご利用者の既往歴 (n=378、回答数=619) 〈複数選択〉

- ▶認知症(118件)、脳梗塞(88件)、がん(70件)、肺疾患/肺炎含む(55件)、パーキンソン病(45件)、心疾患(40件)、糖尿病(27件)、他

〈設問 04〉ご利用者の年代 (n=378)

- ▶75～79歳(22%)、80～84歳(20%)、85～89歳(24%)、90歳以上(25%)、未回答(9%)

〈設問 05〉訪問看護介入期間 (n=378)

- ▶1年未満(41%)、1～2年未満(17%)、2～3年未満(11%)、3～4年未満(4%)、4～5年未満(9%)、5～10年以上(5%)、未回答(13%)

〈設問 06〉栄養管理や食支援について訪問看護の介入有無 (n=378)

- ▶有(75%)、無(19%)、未回答(6%)

【栄養評価に関して】 ※本調査で「栄養評価は、患者に対する栄養過不足の評価」と定義する

〈設問 07〉栄養や食事に関する問題の有無 (n=378)

- ▶問題有(69%)、問題無(14%)、未回答(17%)

〈設問 08〉「問題有」と回答した方の食事の状態 (n=259)

- ▶食べられている(67%)、食べられていない(32%)、未回答(1%)

▶「食べられている」と回答した方の問題点 (n=173、回答数=433) 〈複数選択〉

- ・痩せてきている(96件)、るい痩がある(59件)
- ・食事の提供量が少ない(57件)、食事の準備ができない(56件)
- ・息切れしやすい(30件)、だるさがある(30件)、体調不良を感じる(29件)、発熱や強い痛み、外傷などがある(18件)
- ・その他(57件)、未回答(1件)

▶「食べられていない」と回答した方の問題点 (n=83、回答数=151) 〈複数選択〉

- ・認知機能に問題がある(37件)
- ・飲み込みにくい(35件)、噛みにくい(5件)
- ・口腔環境が悪い(義歯の不具合・乾燥・不衛生)(13件)

NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

- ・気分が悪い(10件)
- ・食事の準備ができない(9件)、食事の提供量が少ない(9件)
- ・痛みがある(3件)
- ・その他(27件)、未回答(3件)

〈設問 09〉栄養評価の実施状況(n=378)

- ▶行った(58%)、行っていない(39%)、未回答(3%)

〈設問 10〉栄養評価を行った職種(n=219、回答数=294)〈複数選択〉

- ▶看護師(149件)、医師(54件)、管理栄養士(11件)、言語聴覚士(11件)、理学療法士(10件)、その他(5件)、未回答(54件)

〈設問 11〉栄養評価方法(n=219、回答数=552)〈複数選択〉

- ・肉眼所見(182件):順に、活気、るい瘦、浮腫、活動量低下など
- ・血液検査(167件):順に、アルブミン値、総蛋白量、Hb値、コレステロール値など
- ・計測(157件):順に、体重、BMI、握力、指の長さ、上腕周囲長など
- ・栄養評価ツール(30件):順に、MNA-Sf、SGA、ODA など
- ・未回答(16件)

〈設問 12〉BMI(n=118)

- ▶痩せすぎ(28%)、痩せ(17%)、痩せぎみ(17%)、普通体重(36%)、前肥満(1%未満)、肥満(1%未満)

〈設問 13〉栄養評価を行うきっかけになった気づき(n=219、回答数=472)〈複数選択〉

- ・体重減少がある(108件)、低体重傾向である(45件)
- ・摂食嚥下障害である(79件)、食欲不振などの訴えがある(61件)
- ・活気がなくなった(67件)
- ・食べられていない状態である(59件)
- ・その他(39件)、未回答(14件)

〈設問 14〉「体重減少がある」と回答した方に、体重減少の程度と期間(n=53)

- ・1~3カ月:1~4kg 未満(26人)、5~10kg 未満(4人)
- ・4~6カ月:1~4kg 未満(5人)、5~10kg 未満(8人)、11kg 以上(1人)
- ・7カ月以上:1~4kg 未満(5人)、5~10kg 未満(3人)、11kg 以上(1人)

【栄養計算に関して】 ※本調査で「栄養計算は、目標体重に対する必要栄養量の算出」と定義する

〈設問 15〉栄養計算の実施状況(n=378)

- ▶行った(13%)、行っていない(84%)、未回答(3%)

〈設問 16〉栄養計算を行った職種(n=48、回答数=58)〈複数選択〉

- ▶看護師(31件)、医師(10件)、管理栄養士(10件)、言語聴覚士(3件)、理学療法士(2件)、その他(1件)、未回答(1件)

〈設問 17〉栄養計算を行う上で考慮している項目(n=48、回答数=75)〈複数選択〉

- ▶基礎代謝(35件)、運動代謝(16件)、障害係数(14件)、その他(2件)、未回答(8件)

【製品紹介に関して】 ※本調査で「製品紹介は、食の課題を有する患者に適した製品の紹介」と定義する

〈設問 18〉対象のご利用者に対する製品紹介の実施状況(n=378)

- ▶行った(69%)、行っていない(29%)、未回答(2%)

〈設問 19〉製品紹介を行った職種(n=260、回答数=339)〈複数選択〉

- ▶看護師(234件)、医師(55件)、言語聴覚士(15件)、管理栄養士(14件)、理学療法士(6件)、その他(4件)、未回答(11件)

NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

- 〈設問 20〉製品紹介の際に、選択肢として提示したもの(n=260、回答数=514)〈複数選択〉
- ・処方できない、栄養補給を目的とした製品/流動食やカップゼリーなど(199件)
 - ・処方できる、栄養補給を目的とした製品/経腸栄養材など(161件)
 - ・一般食品/アイス、ヨーグルト、プリンなど(150件)
 - ・未回答(4件)
- 〈設問 21〉選択肢の提示後、購入の上、使用に至ったもの(n=260、回答数=400)〈複数選択〉
- ・処方できない、栄養補給を目的とした製品/濃厚流動食やカップゼリーなど(135件)
 - ・処方できる、栄養補給を目的とした製品/経腸栄養材など(134件)
 - ・一般食品/アイス、プリンなど(109件)
 - ・未回答(22件)
- 〈設問 22〉製品紹介後、利用者の購入実績と使用状況(n=260)
- ▶使用した(82%)、使用していない(15%)、未回答(3%)
- 〈設問 23〉「使用した」と回答した方の製品紹介後の使用状況(n=212)
- ▶2度以上の継続購入があり使用中(73%)、1度購入し使用/2度以上の継続購入無(26%)、未回答(1%)
- 〈設問 24〉「使用していない」と回答した方の一度も使用しなかった理由(n=40)
- ▶嗜好性による拒否(12件)、経済的困難(11件)、購入手段ハードル(4件)、その他(13件)
- 〈設問 25〉製品の紹介後、製品を購入し使用する決め手(n=260、回答数=494)〈複数選択〉
- ▶味が好みと感じたから(105件)、医療者らの推奨があったから(90件)、購入がスムーズであったから(87件)、選択肢として提示されたから(65件)、金額が手ごろであったから(48件)、課題解決に至る製品スペックと感じたから(39件)、その他(25件)、未回答(35件)
- 〈設問 26〉紹介された製品の利用開始時期(n=260)
- ▶介入当初から(28%)、介入6ヵ月以内(56%)、未回答(16%)
- 〈設問 27〉製品紹介後、利用者による3ヵ月以上継続しての使用状況(n=260)
- ▶継続して使用(59%)、継続して使用せず(32%)、未回答(9%)
- 〈設問 28〉「継続して使用せず」と回答した方の理由(n=84)
- ▶入院、好み・嗜好が合わない、嚥下機能低下に伴い経口摂取不可など
- 〈設問 29〉「継続して使用」と回答した方の継続期間、飲用頻度(n=154)
- ▶継続期間:1年以上(44%)、3ヵ月以内(19%)、4~6ヵ月以内(18%)、7~12ヵ月以内(5%)、未回答(14%)
 - ▶飲用頻度:毎日(65%)、1週間に5~6回(10%)、1週間に3~4回(12%)、1週間に1~2回(4%)、その他(1%)、未回答(8%)
- 〈設問 30〉「継続して使用」と回答した方の継続理由(n=154、回答数=250)〈複数選択〉
- ・手軽にバランスの良い栄養が摂れるから(82件)
 - ・不足しがちな栄養素が摂れるから(ほしい栄養素が入っている(60件)
 - ・味にバリエーションがあり継続摂取できたから(43件)
 - ・体重の変化を感じた(23件)
 - ・その他(35件)
 - ・未回答(7件)
- 〈設問 31〉製品紹介後、製品利用による患者の栄養改善状態(n=260)
- ▶改善した(45%)、改善しなかった(41%)、未回答(14%)
- 〈設問 32〉「改善した」と回答した方の判断指標(n=117)
- ▶体重維持・増加、褥瘡・皮膚トラブルの治癒、食事摂取量の増加、活気など
- 〈設問 33〉「改善しなかった」と回答した方の判断指標(n=107)

NÜTRI: ニュートリーからのお知らせ

- ▶入院、体重減少、皮膚トラブル、褥瘡悪化、採決データなど
- 〈設問 34〉製品紹介後、製品利用による患者の栄養状態以外の生活の改善状態(n=260)
 - ▶改善した(43%)、改善しなかった(39%)、未回答(18%)
- 〈設問 35〉「改善した」と回答した方の得られた成果(n=111、回答数=255)〈複数選択〉
 - ・活気がでてきた(67件)、活動量が増えた(39件)
 - ・食事を安定して摂取できるようになった(35件)、食欲が出てきた(27件)
 - ・体重が維持できた(34件)、体重が増えてきた(27件)
 - ・生活が豊かになった(8件)
 - ・その他(17件)
 - ・未回答(1件)
- 〈設問 36〉栄養評価、栄養計算、製品紹介を一貫実施の有無(n=260)
 - ▶はい(25%)、いいえ(55%)、未回答(20%)

【その他に関して】

- 〈設問 37〉栄養評価、栄養計算、製品紹介のうち、看護師が実施しやすいこと(n=378、回答数=440)
 - ▶製品紹介(262件)、栄養評価(116件)、栄養計算(11件)、未回答(51件)
- 〈設問 38〉栄養評価、栄養計算、製品紹介のうち、看護師が実施しにくいこと(n=378、回答数=429)
 - ▶栄養計算(250件)、栄養評価(74件)、製品紹介(34件)、未回答(71件)